

香港の街巷名について

藤 島 範 孝

1

香港で用いられている街巷名^①の総数は3千余に及ぶが、茲では香港島（港島）と九竜市街（九竜）、新市鎮^②の約2,200の巷名を対象としている。周知の如く香港は英植民地と租借地であるため英語名が優先している、主要街道にはRoad, Street, Avenueを用い、路地にはLane, Path, Drive, Rowなどを当て、特殊地形にある街巷にはCrescent, Court, Rideなどの語尾を用いている。然し乍ら居住民の大部分が中国人であるため中国固有の街巷名も併用されている。華南の一般的街巷名語尾には「道」、「路」、「街」、「里」、「坊」、「横」、「約」などであるが、香港の場合植民化した年代差や急速に開発されたなどの事情で宗主国の影響を受けて、幹線路を「道（dao）」、「路（lu）」、「街（kai）」、派生連絡線を「里（lee）」、「徑（keng）」、「臺（tai）」、「巷（hang）」などをほぼ暗黙の了解で用いている。

香港は勿論中國大陸の一部であり、華南の一地方であるから、伝統的固有名と宗主国呼称が如何に結び付いたかを見る事にする。植民化され西欧式開発の必要から埋立道など新規開削され英名が優先している場合もある。^⑦然し、居民は生活のため華南式の街巷名を別にもっていた。やがて巷名が正式に決定されや「道」はRoadと訳すべきであるといった暗黙の法則が成立したのである。

ただ実際に街巷名をみると英語と中国語が複雑にからみ合っていて、

香港の街巷名について（藤島）

各語を対比して済むといった単純なものではない。街巷名の成立には幾通りかの分類方法があるかと思われるが、一般的には、英國の地名や人名が街巷名となり、^⑧廣東話の発音に合わせて表記したものや、^⑨中國街巷名を英語表記したもの、^⑩英語街巷名と中國街巷とは互に全く関係のないものなどがある。地域別にみると港島は英名が優先し、^⑪新市鎮の如く後に租借された処は中國名が多い。九竜は二地域の中間的街巷名が多いと考える。ただ、九竜の九竜城の如く中國式街巷名が孤立している処もある。これらの傾向を探ってみる事にする。

註

- ① 街巷の「街」は大街、街道で、「巷」は路地、小路を指す。「横街小巷」などとしても用いる。生活路から車道までを指している。
- ② 九竜半島の界限街 (Boundary st) 以北を新界 (New Territorir) という。(北京條約1898年、235の島を併せて獲得), 大角咀 (Tai Kok Tsui) と旺角 (Mong Kok) の北である。香港の人口増加に伴なって郊外住宅団地の建設が急務となり、新界の旧集落を再開発して新市鎮 (New Town) が造成されている。茲では次の New Town を対象としている。青衣 (Tsing yi) 荃湾 (Tsuen Wan), 西貢 (Saikung), 觀塘 (Kwun Tong), 獅子山 (Lion Rock), 沙田 (Shatin), 大埔 (Taipo), 粉嶺 (Fanling), 上水 (Sheungshui), 元朗 (Yuenlong), 屯門 (Tuenmun) の十一の集落である。
- ③ 街巷名の蒐集は次に據る、彭永賢;「香港街道指南」，雅苑出版社'89，香港，通用図書有限公司編;「香港街道地方指南」'89，香港，同公司：「九竜街道図」及び「港島街道図」'88香港，雅苑出版社;「最新旅遊地図」'89，香港，Hong Kong Goverment;「STREET MAP」(7-SW. SE. 11-NW. NE. SW. SE, 15-NW. NE) などから、港島860, 九竜街区750, 新市鎮540の街巷を対象としている。
- ④ 正確な統計はないが、廣東省（四邑人含み）出身者居民の89%，潮州人3%客家、疍家など入れると90%以上は嶺南の出身者である。これらについては次に據る。香港政府の「香港」'88, '89版。「香港年報」，中島嶺雄;「香港」時事通信社'85, 12, 姫宮栄一;「香港」中央公論社, '76, 島尾伸三：「香港市民生活見聞」新潮社'85, 3, 山口文恵;「香港世界」筑摩書房, '86, 12, 同;「香港旅の雑学ノート」新潮社, '85, 8など、なお、四邑人とは珠江三角洲の西出口にあたる新会、台山、開平、恩平県の人をいう、港島の湾仔と九竜の旺角に集中している。
- ⑤ 藤島範孝;「広州市の街巷名について」佐藤忠彦教授追悼論文集, '89。藤島範孝;

香港の街巷名について（藤島）

「広州市の古地名にみる汀線の変移」'89, 2, 岩見沢駒沢短大論文集第2号。
藤島範孝; 「広州市の都市計画の実状と問題点」駒大北海道論集, '89, などに華南の「街巷」について述べてある。

- ⑥ 1842年南京条約で香港島の割譲決定, 1860年北京条約で九竜市街地（九竜半島尖端）の割譲決定, 1899年九竜北部の新界地区と235島の租借権獲得, のち武力で接收, 香港島の植民地化が行われてから46年ほど後に半島全域に及ぶ, 従って半島北部は華南の集落形態と街巷名をもっていたので, 中国式の街巷名を英語化したことが年代差である。
- ⑦ 香港島に多い。香港島も英植民地としての正式名称は City of Victoria (単に Victoria) で女王の名 (今日では使用せず) である。Victoria park Rd 維多利亞公園道 (維園道) や, 植民地最初の大道を Quee's Rd Central (皇后大道中) としたり, 港督や將軍名を命名している。Henry porringer が砵甸乍街, Sammel George Bonham が文咸街, 海軍少将の H. J. Harcourt が夏慤道となり, J. D. Lugar が盧吉道, Richard Graves Macdonnell が麦當勞, Kotewall も旭龢道となっている。派生した Stanley St (士丹利街), wellington St. (威靈頓街), かつては海岸プラヤ通りの Des Voeux Rd Central (德輔道中) や九竜市街の彌敦道のように第13代総督の Nathan の開発なる街巷名がそのまま残っている。
- ⑧ ⑦であげたものと重複するものもあるが Pottinger St (砵甸乍街), Grahamst (嘉威街), Peel St (卑利街), Connaught Rd. Central. (干諾道中), Mt. Austin Rd (柯士甸山道), 九竜の方には Kimberley St (金馬利街), Waterloo Rd (窩打老道), Chatam Rd (漆咸道), Salisbury Rd (梳士巴利道) の他に Old Bailey (奥卑利街), Elgin (伊利近) などがあげられる。
- ⑨ 地名であるが尖沙咀 (Tsimsha Tsui) は砂の尖った咀 (嘴) のことで砂嘴のことである。旺角 (Mongkok) は古く茫 (Mong) 角といった (無人の地), 英語の Mong はその名残りという。旺角は繁華街のこと, 旺角には西洋菜南街 (Saiyeungchoi St. S) というのや別名を女人街という通菜街 (Tungchoi St), 古く大角咀 (Taikok Tsui) といった塘尾道 (Tongmi Rd) といったものがある。旺角には四邑人が集中していた。
- ⑩ 正式な名称は「乍畏街」という將軍名の街道は, 古くは「蘇杭街」と称していた。蘇杭は蘇州, 杭州を指し絹織物, 衣類など売っていた店舗が並んでいた。「吉士笠街」も Gutzlaff という人名であるが, 通称は「紅毛嬌街」といっていたし, 「文咸東街」も別名は「南北行街」であり, 「奥卑利街」も英國の司法機関の名から転じたものであるが, 通称は「長命斜」と呼び近くに監獄があって短命でないことを祈り, この傾斜坂を登ったというのが巷名であった。「安和里」も通称は「二奶巷」という妾妻のいる街巷であった。もっともここは長い間「無名巷」

香港の街巷名について（藤島）

といわれていた。'30代には「和安里」ともいわれている。香港の横街小巷が全て揃うようになるのは大戦以降（1984年）でそれまでは居民が命名した巷名が通称として通っていた。正式の名称は港庁が発表した「万宣里」のように「中国街」といって侮蔑されていたのを万宣大廈が建って改名した例はいくつもある。居民の通称の巷名と政府が出す正式の巷名とは異なったものがあった。第二次大戦後になって定着してきたものと思ってよいであろう。

2

街巷名の最初は、街巷名語尾の中国式呼称と英國式呼称の組合せてからみてみようと思う。香港では一般に「道」と Road, 「街」と Street, 「路」と Avenue, 「里」と Lane, 「徑」と Drive 或は Path, 「臺」と Terrace, 「巷」と Path, Row の組合せといわれるが、実際には多くの例外がある。先ず「道」からみてみよう。「道」は主要幹線路に用いられる。代表的なものに、港島では皇道英皇道（King's Rd），皇后大道（中. 東. 西）^⑨（Queen's Rd-C. E. W），金鐘道（Queen's way），維園道（Victoria park Rd）告士打道（Gloucester Rd）があり，九龍には彌敦道（Nathan Rd），太子堂道（Prince Edward Rd），窩打老道（Waterloo Rd）などがある。港島では東西走向で島の北側の臨海を貫通する幹線路であり，九龍では南北走向で半島の中央部を割り背骨をなす路線である。各々も英語名が優先し植民地計画の主軸をなす交通政策の路線である。

中国で用いる「道」は「道路」，「通路」，「水路」，「鉄路」や抽象的な人道，空間的領域である地方や地域を指す時に使われ，都市道路としての用いられ方は比較的少い。「道」は勿論大路，公路，大街である。中国の大都市で大道として用いているは天津市，鄭州市，武漢市，广州市である。これらの「道」は解放後開削されたものが多い。武漢市と广州市が都市大道で，香港の各「道」に匹敵する幅員を有している。他市では「路」と「路」を連絡する派生路か郊外へ新規敷設されたものが多い。香港では街道的意義が強調されて，最も重要な路線へ「道」が付けられている。しかし，「道」は中国的発想からではないと思われる。英國

香港の街巷名について（藤島）

式の Road の訳語として「道」であったものとみる。

植民地の開発は臨海の平坦地域は埋立を行い産業道路の確保から出發したようである。港島に續いて九竜半島の開発も荒野へ彌敦道を開發することから始っている。香港に於ける「道」の総数は493である。港島には234，九竜には225，新市鎮には34がある。これら「道」を Road と訳しているものは総数で461ある。港島では220，九竜では207，新市鎮では34全て Road である。

Road 以外に Avenue, Street と訳しているものもある。①Avenue(以下 Ave)は、港島に4，九竜8，②Street(以下 St)は、港島に1，九竜4，他に③Path が港島3，④Rise が港島1，九竜1，⑤Drive が港島1，九竜1，⑥Way, Parade, Crescent, Tunnal が港島に各1，⑦Incline, Circuit, Lane, Approach が九竜に各1ある。（第一表参照）

第1表

		道 (dao)			
英 名	地 区	港 島	九 竜 市 街	新 市 鎮	計
Road	(Rd)	220	207	34	461
Avenue	(Ave)	4	8		12
Street	(St)	1	4		5
Path		3			3
Rise		1	1		2
Drive		1	1		2
Way		1			1
Parade		1			1
Crescent		1			1
Tunnal		1			1
Incline			1		1
Circuit			1		1
Lane			1		1
Approach			1		1
計		234	225	34	493

香港の街巷名について（藤島）

Road, Avenue, Street が「道」と訳されるのは異様ではないが、Path, Rise, Drive といった小径も例外として用いられている。Crescent などは英本土の呼称を持込んだものである。Way を「道」と訳した金鐘道は初め皇后大道東であった、だから Queen's Way というよりは Queen's Rd とすべきだったろうが、英國海軍 Dockyard の傍を通る狭い道だったので Way が妥当であった。然し、幹線の皇后大道（Queen's Rd）に続く道であるから Queen はそのまま残したものである。このように Road の訳以外は史的な命名理由をそれぞれ持っている。

註

- ① Road は街道と訳すのが一般的である、広義にはシルクロード、などの交通路で文化交流の意味も含まれる。都市内では main Rd として用いられ中央道路という。Road Way とは車道のことである。大陸では街道というと区役所が置かれている小さな行政単位を指している。そこに工場があると街道工廠という。医療機関があると街道衛生院といっている。
- ② 普通は大通りと訳している。都市の中核をなす道、main street は主要大通りであるが、商店街や市場のある通りと考えられていることが多い。東西走向が多い、欧米では教会の入口が東であることから東から西へ通う道が大通りと思われている。Lombard street はロンドンの金融街であり、Street Cries は行商人の呼び声で、Street orderly は道路清掃人がいる通りであると思えばよい。
- ③ アメリカでは南北走向の大きな街路として考えられ、英では並木道、特に大邸宅の入口から邸宅まで続く樹木道で、車も通れる道を指していることが多い。香港では特に特定の樹木があるわけではない。
- ④ 脇道と訳されることが多い。アメリカでは自動車が一列になって進む道のことをいっている。バス占有の脇道を Bus Lane と呼んでいる。
- ⑤ 古くは屋敷内の馬車道であったものが公園内の車道にも用いられたといわれている。そもそも乗馬路と関係があったものといわれている。
- ⑥ 踏み分け道の如く自然とできた道で、森の小道などを指している。公園内の道にも用いられている。
- ⑦ 台地上の道や坂道に用いられている。英では階段式の住宅へ通じる道や段丘上の町へ通じる坂道に主として用いられている。香港の場合やや上流の階級者の居住する山の手へ行く道という意味も貢められている。
- ⑧ 樹木が列をなしている並木道に用いられる。散歩道という時にも並木通りのあ

香港の街巷名について（藤島）

る散歩路、散策路として扱われている。

- ⑨ Colony の中心であったから Victoriapark Rd (維園道) や Victoria Rd (域多利道), Victoria Swimming pool (維多利亞泳池) の名称を残している。この Victoria (City of Victoria) の最初のメインストリートを Queen's Rd (皇后大道) とした。この大道を中心、東、西に区分して Queen's Rd Central, Queen's Rd East, Queen's Rd West としている。Queen's Rd central から東へ延ばし Queen's Way (金鐘道) とし、更に山の手を Queen's Rd East を設け、街路に Queen's Victria (域多利皇后街) を置いている。従って、この中環の一帯は Victoria と Queen から構成されている。なお中環は Central と訳されているが、植民地 Central は City of Victoria (香港島) そのものであったと思われる。
- ⑩ 東西走向のものが多い、南運河に添って「西青道」「志成道」、北運河に添って「南倉道」「普濟河道」尖山公園の南の「黒牛城道」「怒江道」、都市の中央に「多倫道」「鞍山道」「營口道」「成都道」「馬場道」「紹興道」「金鐘河道」などがある。
- ⑪ 沙口路と嵩山路を連絡する「二環道」がある。
- ⑫ 旧武昌に「臨江大道」、「和平大道」、旧漢陽に「漢陽大道」、「鸚鵡大道」、旧漢口に「解放大道」、「沿河大道」、「中山大道」がある。
- ⑬ 河南の「工場大道」、「芳村大道」、沙面へ出る「黃沙大道」などがある。藤島範孝;「広州市の街巷について」前掲書
- ⑭ 九竜市外地の尖沙咀は1860年割譲されるまで「香埗頭」といわれ、香木を輸出する渡船場であった。香港島より19年遅れて開発される。13代サーマシューネイサン（在任1904～1907）が、半島の荒地を他の反対もあったが、道路を開削する。今日九竜市街の背骨をなす Nathan Rd である。
- ⑮ 珠江三角洲一帯では網状河川の状況から陸上交通路を設ける考え方はできなかった。従って香港の「道」の開発は、ある意味で文明路であったともとれる。
- ⑯ 昇る。揚がる。などの意味から台地や高台、崖の上へ行く上り坂や上り道に用いられている。
- ⑰ 海岸に設けられた Promenade か public square で広場に用いられている。
- ⑱ 三日月形の広場、ロンドンの広場に Themorrinton Crescent があるので持込んだのかも知れない。なおトルコ軍旗や三日月形のパンをいうこともある。
- ⑲ 地下道、隧道である。
- ⑳ 傾斜、斜面から Steep incline で急な坂に用いる。
- ㉑ 回路、一周する。回り道 (Circuitous) に用いられている。
- ㉒ 入口、近道として用いられる。ある地点へ近づく道として用いられる。
- ㉓ ⑯参照

3

「道」と「路」と「街」は都市の主要交通路である。中国の「馬路」は「道」より重要路である。もともと「路」も「道」と同様に行政区画の単位として用いられている。宋代には唐の道制に倣って全国を21路に区分して行政観察機構を設けている。元史地理志に據れば元代に185の「路」が存在したという。明代以降廃止されているが、「路」は地域区分として空間的広ろがりを持っていたのである。使い方も「道」と似ていて「路線」といえば思想や政治の路線であるし、「路径」といえば経路や道筋を表わしている。街巷の「路」は道や道程、筋道をいう。最近では高速路や大型自動車の通る路である。各れにしても「路」は都市を貫く道路を指している。

中国の大都市で「路」は幹線である。北京市の中央を横断する長安街は西へ延びて復興路となり、東へ延びて建国路となっている。中国を象徴する天安門を擁している路線である。網状路線の発達した上海市でいえば、横断（東西走向）する主要道路は北京路、南京路、延安路、復興路で、縦断（南北走向）路は河南路、西藏路、陝西路となっている。華南の広州市でも横断（東西走向）幹線路は東風路と中山路で、縦貫（南北走向）幹線路は人民路と解放路である。^②然し、香港では必ずしも重要路とはいえない。連絡路的機能を果たしているに過ぎない。これが大陸との差であり、香港の特徴ともいえる。港島に9路、九竜に16路、新市鎮に125路ある。港島と九竜は「道」に圧倒されている。新市鎮は租借が遅れたことで、大陸の影響が残ったものといえる。（第2表 参照）

かつ、「路」は分布に特徴があり、港島では鰲魚涌（Quarry Bay）の太古城（Taikoo Shing）付近の古い中華集落に集中しており、太裕路（Taiyee Ave）太茂路（Taimou Ave）太豊路（Taifung Ave）大栄路（Taiwing Ave）とあり「太」古城との関連で命名されている。九竜の方の「路」は樹木や花卉と関連したものが多く、路線の開発に伴なって

香港の街巷名について（藤島）

洋風が取入れられたものである。丹桂路^③ (Osmanthus Rd), 高槐路^④ (Cassia Rd), 海棠路^⑤ (Begonia Rd), 紫葳路^⑥ (Tsewei Rd), 紫藤路^⑥ (Wistaria Rd), 寿菊路 (Marigold Rd), 青楊路 (chingyeung Ave), 緑柳路 (Luklan Ave) がある。広東語+「路」は Ave と訳され、英語（外来語）+「路」は Rd と訳される傾向がある。港島に Rd が多い。なお、九龍の機場一路から五路までは各れも Drive と訳されている。Airport Drive No1～No5 となっている。自動車の乗入れと関係があると思われる。新市鎮にある公路は High Way のことである。

第2表

		「路」(lu)			
英名	地区	港 島	九龍市街	新市鎮	計
Road (Rd)		3	7	117	127
Avenue (Ave)		4	3	1	8
Street (St)				4	4
Path		2			2
Drive			5		5
Crescents			1		1
High way				2	2
Twisk				1	1
計		9	16	125	150

扱て、大道で残った「街」であるが、前二者と少し意味あいが異なって、都市を貫通するよりは市場のある大通りと考えた方がよい。「街市街」とは市場街のことであるし、「街上」というと繁華街路上であり、「街坊」とは近所、隣組となる。「街街巷巷」とは「街巷」のことで大通りも横丁もといった意味でアジア的市場景観をもつ大通りとなる。

「街」の語尾が付く大通りは、港島に372、九龍に423、新市鎮323がある。この街名の内 St と訳されているものは、港島で360、九龍で414、

香港の街巷名について（藤島）

新市鎮では311ある。中国が諸都市でも「街」は主要幹線ではあるが、「路」^⑦が優先し「街」の用いない都市もある。「街」の訳は一般に St とされている。（第3表 参照）

第3表

		街 (Kai)			
英 名	地 区	港 島	九竜市街	新 市 鎮	計
Road (Rd)		1	3	3	7
Avenue (Ave)		3	2		5
Street (St)		360	414	311	1085
Strand		2			2
Bazaar		2			2
Crescent			1		1
Rise		1			1
Alley		1			1
Row		1			1
Junction		1			1
Terrace		1			1
Court		1			1
Circuit			1		1
Quadrant			1		1
Past				1	1
Close				1	1
Kai				1	1
計		374	422	317	1113

「街」の訳し方をみると St 以外は多様である。香港では Rise, Alley,^⑧ Row, Junction, Terrace があり、九竜には Court^⑩, Circuit, Quadrant があり、新市鎮には Past, Close, Kai がある。各地区の地形の特徴から訳したもののが多様になったものと思われる。港島にある Strand は「文咸東街」(Bonham Strand) と「文咸西街」(Bonham Strand, W) のことで、各れも海岸^⑪ (Strand) を埋立てた処である。Bonham は第3代総督の

香港の街巷名について（藤島）

Sammel George Bonham に由来する。「文咸」も最初は「般含」の字を当てたが、後に「般咸」となり「文咸」と改められている。なお、「文咸東岸」の英訳には「東」の訳が付いていない。新市鎮の kai は広東語で、普通語では「街」のことを Jie と発音している。

註

- ① 大陸で用うる「道」は時代によって意味あいに差がある。漢代の「道」は主として少数民族の居住地区に設けられた「県」である。中央から官吏が派遣される郡県制度に準じた地域を指している。唐の貞觀の初め（623年頃）、地勢に応じて全国を10道に区分している。その「道」には採訪処置使が置かれ道内を巡察されたと旧唐書地理志にある。後には（740年頃）全国を15道に再構成して、その下に行政地区である府郡（328カ所）と県（1573カ所）を設けている。（新唐書地理志）、元代には路を廃止して「道」を設け省と府、直隸州の中間に位置づけている。「道」は分派道と分守道に分かれ長官を道員といっている。この機構が清代、民国時代に引き継がれて各省を「道」に区分し、行政監察機構として残っていた。このことから「道」は単なる筋や線状と云う理解よりも地域を指し空間的語感として使える必要がある。街巷名の「道」もこの行政単位の「道」の影響を受けて小径と訳されるのは適切でない。
- ② 藤島範孝：「广州市の都市計画の実状と問題点」前掲書。
- ③ 丹桂（dangui）は金木犀のことである。木犀は fragrant olive で英名と関係ない。
- ④ Cassia は Cimamonum cassia といい、楠科の喬木、にっけいの一種、槐ではない。
- ⑤ 海棠はいばら科落葉権木、aronia という。Begonia は秋海棠、多年草である。
- ⑥ 紫藤はシナフジのことである。Wistaria は Wisteria と同じである。
- ⑦ ほとんど「街」を用いない都市「上海市」、「南京市」、「杭州市」、「合肥市」、「南昌市」、「广州市」、「貴陽市」、「昆明市」などがある。
- ⑧ Pass. shady, Walk と同じように小径に用いられる。back street（狭い裏町）の意味で使われたのであろう。
- ⑨ もとは河の落合に用いられたのであろうが、駅や交差点、十字街に用いられている。
- ⑩ 入口のついた裏町の広場や小路と小路が交差する一角、テニスコートへ行く小路といった風に用いられている。ケンブリッジ大学の中庭の名称でもある。
- ⑪ 夏曆：「香港中区街道故事」（古今香港系列），1985，5 三聯書店、香港、ロンドン市とウエストミンスター結び、Thames 河にそって strand 街がある。岸、川辺の意味にも用いた。香港では海浜、臨海ということでは Playa が用いられているが、海岸道路が近代化するにつれて呼称することが少くなっている。

香港の街巷名について（藤島）

4

大路から派生して連絡路、中間道、生活道などを香港では「里 (lee)」、「徑 (Keng)」、「臺 (tai)」、「圍 (wai)」、「坊 (fong)」、「巷 (hang)」を用いる。小路、路地、横丁、裏町、小径、散策路、散歩道、山麓道などが所謂「巷」である。華南諸市では多様で、「橫」、「約」、「園」、「地」、「崗」、「津」、「居」、「新」、「尾」、「中」、「後」、「湧」、「沙」、「洞」、「頭」などがある。香港の巷名語尾はより整理されていて種類は少い。

巷の最初は比較的数の多い「里」からみよう。中国に於ける「里」は行政区画としての郷里制に用いられ^①「一市里」は500m四方へ通ずる路であると考えられている。人家が5戸集ると「隣」とし、5つの「隣」が集ると「里」と呼称された。従って25戸内へ通ずる路が「里」である。「里」には又、裏或は裡の意味があるので、裏町、裏通りでもある。香港の「里」を地区別にみてみると港島に115、九龍には34、新市鎮には21ある。その多くは Lane と訳されている。（第4表参照）

第4表

		里 (lee)			
英 名	地 区	港 島	九 龍 市 街	新 市 鎕	計
Avenue	(Av)			1	1
Street	(St)	2			2
Lane		112	32	18	162
Path		2			2
Villas			1		1
Crescent			1		1
Circuit				1	1
計		116	34	20	170

Lane の他に St や Path, Villas などがあるが数では少い。^②「里」を分布でみると特定地域に集中傾向がある。港島では臨海埋立や再開を行った

香港の街巷名について（藤島）

中環では皆無で、古い中華街のある上環（sheung）から西營盤（Saiyingpun）^③に多い。この地域は又、通称や俗称の多い処でもある。九龍でも同じような地域に集中している。特に毓華街と蒲崗村道（Village Rd）に狭まれた一角には蒲芳里（pofong Lane），蒲景里（Poking Lane），蒲英里（Poying Lane），蒲衡里（Pohang Lane），蒲田里（Potin Lane），蒲蒐里（Powai Lane），蒲明里（Poming Lane），慈華里（Tsزوoh Lane），貫華里（Koonwah Lane），芳華里（Fong wah Lane）などがある。蒲崗村の道として「蒲」の頭字を揃えたものであろう。Laneはもともと脇道と訳され、道路の路肩を自動車が一列に進行できる道を指している。

次は「徑」である。普通語では Jing と発音している。小道、山道、曲った路地、坂道などに用いられている。又、徑情というと直情のことであり、徑直というと直接ということもあって早道、近道といった意味もある。^④香港の場合「徑」の命名された地点の地形からみて「山越え」、「山麓」路の例が多い。

港島の地形を高度によって 4 段階に分け、街巷名の垂直分布を当嵌めてみると次のようになる。一番低い埋立地と海傍（Playa）に幹線路「道」が用いられ、古い汀線の内側の第 2 段階には「街」と「路」が用いられ、これら街路から派生した路地や坂道が第 3 段階で、「里」や「坊」が命名されている。山腹から山上、台地上にかけては第 4 段階で、山越えの道や散策路、別荘内路、園内通路といった道ができ「徑」或は「臺」といっている。都市の発展段階と植民地化政策が居住民の住み分けを決め、街巷名の垂直分布と深く関わっている。又、大陸諸市の如く平面行政の区画から出発した巷名とは異質の命名でもあった。

「徑」の訳し方は一般に Path である。Path そのものは自然にできた森の小径のことであるが、香港の如き開発がすすんだ島には自然の径は少い。（第 5 表参照）

香港の街巷名について（藤島）

第5表

地 区 英 名	徑 (keng)				計
	港 島	九 竜 市 街	新 市 鎮		
Avenue (Ave)	1	1	1		3
Path	19	17	30		66
Drive	9	1	1		11
Ride	2				2
Lane	1	1			2
Close	2				2
Link	1				1
Walk	1				1
Circute			1		1
Keng		1			1
計	36	21	33		90

「徑」も地域集中の傾向がある。九竜の東部の東尖沙咀 (Tsimsha Tsui E) で、康泰徑 (Hongtai path), 康達徑 (Hong tatpath), 康栄徑 (Hong Wing Path) があり、隣接して佐敦徑 (Jordan Path) と覺士徑 (Cox's Path), 九龍公園徑 (Kowllon park Drive) がある。又、彩虹邨 (Chiohung EST) には龍池徑 (Lungchi path) や貴池徑 (Kweichipath), 労池徑 (Lochipath), 金池徑 (Kamchipath) などの類似街巷名が集中している。古くは一つの独立集落であった名残りでもある。紅磡 (Hungham) には上海出身者が集中していることも巷名に影響している。^⑤

山腹や山頂にかけて「臺」がある。最近では「台」も用いている。港島には63の「臺」があるがうち11例は「台」を用いている。「臺」は無論、台地、たか台、眺望台などの意味がある。港島に多く、九竜に1例、新市鎮にはない。ただ、九竜に天文台があるので、天文臺道 (Observatory Rd) と天文臺街 (Observatory Court) がある。施設名が巷名となつたものである。「臺」の訳は①Terrace が61 (港島61), ②Court が1 (港島1), ③St が1 (港島1), ④Row が1 (九竜1) となっている。港

香港の街巷名について（藤島）

島の「臺」をみると大分散小集中の傾向がある、集中地域では類似の巷名が多い。例えば山村台 (Village Terrace), 山坡台 (Hillside Terrace), 山辺台 (Shanpin Terrace), 大安台 (Taion Terrace), 太白台 (Taipak Terrace), 太子台 (prince's Terrace), 西臺 (West Terrace), 西尾臺 (Westend Terrace), 西摩臺 (Seymour terrace), 光景臺 (Prospect Terrace), 光超臺 (Kwongchui Terrace), 光漢臺 (kwonghon Terrace)などがある。広東語のものもあるが、英人別荘地として開発されたこと也有って英語名が先行し、難解な広東語表記をとっている。聖約瑟台 (St. Joseph's Terrace), 精緻臺 (Beautifu Terrace), 摩頓台 (Moreton Terrace), 樂景臺 (Happyvew Terrace), 亞威士頓臺 (Alveston Terrace), 卑利瑪臺 (Braemar Terrace), 列拿土地臺 (Rednaxela Terrace), 加倫臺 (Clarence Terrace), 加冕臺 (Coronation Terrace) などがそれである。

次の路地名の「巷」は華南特有であるが、香港では少い。港島に 9 巷、九龍に 1 巷、新市鎮にはない。港島の 7 巷は Lane と訳され、残る 2 巷は亜厘架巷 (Algar Court) と弓弦巷 (Cicular pathway) である。九龍には宝勤巷 (Part Ave) のみである。「巷」は河川でいうと主流から岐れた分流の意味があり、華北の「胡同」に匹敵するといわれるが、「胡同」ほど規格的ではなく自然発生的要素をもっている。广州市では路地名の約 50% が「巷」である。山岳地や丘陵にはないが、平坦な商業区下町に集中している。^⑧ 香港に「巷」名が少ないので、都市開発が先行し街路が最初から規格化されていて、自然発生的な路地を形成する余裕がなかったことと、幹線道路が次つぎに「道」名が付けられて行ったため、「道」と「巷」の組合せができなかった。即ち、「巷」は本来「街」との組合せて成立するものであるが「街」の発達が十分ではなかったことに據ると思われる。

同じことは路地名「坊 (fong)^⑨」についてもいえる。港島に 15、九龍に 2 坊ある。港島には九如坊 (Kauu fong), 五桂坊 (Ngkwai fong), 兆祥

香港の街巷名について（藤島）

坊 (saicheung fong), 成和坊 (Singwoo crescent), 秀華坊 (Sauwa fong), 両儀坊 (Leungi fong), 居賢坊 (Kuiiu fong), 育賢坊 (College view), 基利坊 (Greig Crescent), 万松坊 (Manchung Terrace), 箕璉坊 (Green Crescent), 蘭桂坊 (Lankwai fong), 渣甸坊 (Jardine's Crescent), 衛城坊 (Castle steps), 林安坊 (Lamon fong) などがある。広東語の fong が 7 坊, Crescent が 3 坊ある。View と Steps. Terrace が各 1 坊ある。fong を除く語尾をみると巷名は各れも英語が先行して命名されたものである。fong を用いると巷名も広東語である。新市鎮に「坊」名が多い。古い集落のあった地域に目立つ,^⑩ 二陂坊 (Yipei Sq), 三陂坊 (Sampei Sq), 大陂坊 (Taipei Sq), 水車坊 (Shuiche Court), 仁樂坊 (Yunlok Sq), 四陂坊 (Saipei Sq), 安達坊 (Outat Sq), 安民坊 (Onman Sq), 同秀坊 (Tungsau Sq), 同茂坊 (Tungmau Sq), 同發坊 (Tungfat Sq), 青湖坊 (Tsingwu Sq), 青河坊 (Tsingho Sq), 金祥坊 (Kamcheong Sq), 協成坊 (Hipshing Sq), 曹公坊 (Tsokung fong), 裕景坊 (Yuking Sq), 運頭坊 (Wantau Sq), 達仁坊 (Tatyan Sq), 鄉事会坊 (Heungtzeyu Sq), 樂霞坊 (Lokhar Sq), 広福坊 (Kwougfuk Sq), 橋樂坊 (Chiulok Sq), 宝樂坊 (Polok Sq) 鳥地坊 (Houtei Sq) 宝鄉坊 (Poheung Sq) など26坊ある。水車坊の Court と曹公坊の fong を除いて他は全て Sq である。新市鎮で坊名が集中しているのは荃湾 (Tsuen Wan) と福佬が集中していた大埔 (Taipo)^⑪ や元朗 (Yuenlong) といった中華集落に多い。香港の初期治安維持のため民間機構が生れたが、これを「団坊局」と称している。この場合の「坊」は街の意味をもっている。この場合、生活路地の「坊」よりも市井の人として理解されていたようである。

この他路地名に「圍 (wai)」がある。港島にはないが九竜に 8, 新市鎮には 13 ある。華南の集落は古くから城壁で囲んだ圍村であった。城壁の外側には水濠を設け盜賊を入れぬようにした。围村の中は同一姓で宗族社会を構成していたものである。後に移動してきた人は围村へは入

香港の街巷名について（藤島）

れず、その周辺に居住した。新界に多く錦田（Kam tin）元朗、粉嶺（Fanling）に多い。街巷名ではないが、新界の集落として沙井囲（Shakong Wai）、屯子囲（Tuentsz Wai）、新围仔（Sanwai Tsai）、錦慶囲（Kamhing Wai）、吉慶囲（Kathing Wai）などが知られている。九竜には仁宇圍（Yanyue Wai）、天文臺街圍（Observatory court）、馬頭圍道（Matau Wai Rd）、崇德圍（Shungtak Wai）、漆咸圍（Chatham Court）、衛前圍道（Ngatsim Wai Rd）、嘉蘭圍（Granville Circuit）、慶田圍（Hingtin Close）などがある。Court や Circuit. Close という訳し方もあるが、広東語の Wai が一般的である。新市鎮には水辺圍路（Shuipin Wai Rd）、屯盛圍（Tuenshing Sq）、光輝圍（Kwongfai Sq）、老圍路（Lowai Rd）などがある。華南には河や水に囲まれた水濠集落もあるが適切な訳語がないものとみえる。

以上が横丁、路地、裏町などを表現した「巷」名の主なものである。大陸の一部ではあるが華南の各都市に比較すると集落が孤立化していくこともあるって巷名が集中する傾向と巷名の種類が少い。開発を急いだため中国的巷名命名の余裕がなかったのと、俗称や通称巷名が英語巷名によって消失したなどが考えられるのである。

註

- ① 前漢405m、後漢414m、魏434m、隋531m、唐559m、宋から元552m、明559m、清576m、民国代から500mとなっている。
- ② 本来邸宅か別荘、英では 1 軒か 2 軒離れて立っている郊外型の孤立荘宅を指している。
- ③ 中環の西、香港開発当初の繁華街、最近になって中国人が定住した地区、西營盤とは西にある兵舎の意味、英軍の駐屯所があったとか、英軍が香港へ最初に上陸した Poss Eission Piont（大笪地）が有るからとかいわれるが、英軍の兵舎は臨海にあったから、英軍とは関係なく海賊の張保仔の陣地でなかったかといわれている。（阮元：廣東通志、政經略及び海防図）もっとも当時港島は紅香炉といわれている。ただ、上環と西營盤の境界は不詳明である。中環の西側は呼称が混乱しているといわれる。西營盤の西半部を西環としたり、石塘咀までと

香港の街巷名について（藤島）

したりしている。英語表現では上環も West としている。西営盤の西端は H. K. University までとしている。別名をいくつかあげると「安泰街」(Ontai St) は果物問屋が集まるので「果横街」、「摩羅上街」(Cats St) は蚤の市、又は泥棒街といっている。「梅芳街」(Mui fong St) は「鹹魚欄街」といい塩魚屋が集っていた。中環にも別名が多い。この地区は香港最初の芝居や酒樓があった。(1846年頃より) 大笪地前の「水坑口街」(Possession St) は紅灯地区で娼館ができ、最初の酒樓「杏花樓」が生れ19Cの終りには港島で30か所酒樓があった。約半分は西営盤の石樓咀へ集中していたといわれる。英軍が上陸するまでは漁民の墳墓であったといわれるが、砲台が置かれ、後に平民夜総会というナイトマーケットが成立している。かつて潮州人が多く居住していた。

- ④ 小径の他に直径、半径、口径などに用いて最短の直線に使われている。織物ではタテ糸のことを径という。
- ⑤ 九龍の東部地区は上海出身の人が多かった。港島では北角に集中していた。主に紡績業や海運、洋服仕立業、理髪業などを職業としていた。広東の人に比べてファッショニ性にとみ、一般にモダンと思われている。街巷名も紅磡(Hung hom)には「蕉湖街」「江蘇街」「浙江街」「安徽街」「江西街」「黃浦街」といった華中に関係あるものが多い。
- ⑥ 華北では「胡同」を路地という。「死胡」は袋小路である。「胡」はもともと「胡人」や「胡服」と関係があり、北方西域民族の総称である。「胡桃」や「胡麻」、「胡琴」などとして知られている。「胡同」は蒙古語である。壁に囲まれた道のことで、本来横丁とは訳しにくい。上海市の如く華中では路地のことを「弄口」といっている。各世帯が独立して居住している弄堂という。藤島範孝：「广州市の街巷名について」前掲書。藤原恵洋：「上海」講談社 S.63. 東京。
- ⑦ 港島にある子同巷(Cheetung Lane), 水巷(Water Lane), 水池巷(Tank Lane), 王里巷(Wong Lee Lane), 石巷(Stone Lane), 堅巷(Chine Lane), 磅巷(Pound Lane)などみると居住民とあまり関係なく、目的地或は目的物へ通ずる道として命名されたものが多い。
- ⑧ 広州市の「巷」の中には埋立された地域についたものがある。宋代まで坡山の西の「甜水巷」や「仙隣巷」、「杏花巷」は後背湿地の中にあったものである。
- ⑨ 周囲に防壁をめぐらして居民の居住地を囲んだ、「坊」は「防」なりともいわれる。北魏では公式に「里」といった居民の区画が、民間では「坊」といったことから始ったという。隋も「里」を公定としているが、唐代に入ってからは「坊」は区画の正しい呼び方とされている。
- ⑩ 中国には古くから地域を囲む考え方が徹底している。長城によって国土を囲み村を囲み国境を定め、城壁によって領土を囲み、城内では軍備を拡充し、領土

香港の街巷名について（藤島）

内で生産を発達させた。地域は共同体として商業を営んだ。次には隣の城邑を囲み領邦国家をつくった。「坊」は囲みの末端組織であった。防禦の他に疫病の蔓延を防ぎ、洪水の被害を少くし、類焼を防いで共同体意識をたかめることに貢献してきた。唐代は都市の行政単位が「坊」である。「坊内」には官吏がいなく居民の自治がはかられた。居民の出口を「坊門」といっている。「坊内」歩行は自由であったか、坊門には開閉の門限があった。「坊」の名称は公定のもので勝手に改名することは許されなかった。一般に「坊」名は佳名がつけられている。「坊」の規模は5段階くらいに分けられ、最小は一辺5.145mの305歩の正方形、地形によって長方形。皇城があるとその両側の「坊」は大きく南へ向かって小型となる。時には中心部が小さい「坊」で周辺につれて大きくなるものもあった。「坊」の坊壁は土を用いて基底の幅が2.5m～3mぐらい高さは3mぐらいあった。「坊内」をすると大街が馬路になった。語源は仕事場とか本屋とかいった「書坊」から転称したといわれる。香港ではこれらの規定の適用はなく郷愁的用い方したものが多い。

- ⑪ この大埔と西貢には客家の人が多く居住していた。新界の勒馬州の方にも居住地があった。広東の人（本地）の人より先に居住していた先住民、古くは中原の出身といわれるが、今の故郷は広東省の東部梅県である。本地の人と折りが悪く十九世紀の中頃まで水利権と草刈場と墓地の争奪があった。纏足しない唯一の漢民族ともいわれている。太平天国の革命指導者の洪秀全は客家の出身である。又、福佬の人（鶴佬とも学佬ともいう）も大埔にいた。この人たちは水上生活をしていた少数グループであるが、古い中国の習慣で生活をしている。
- ⑫ 城塞の回わりに水濠を設けるのは古い城塞の基本であった。啓徳機場（kaitak Airport）に近い九竜城（Kowloon city）では城壁の回わりに水濠があり、城内へ入るまで揺ね橋を渡って入った。城の入口を竜門と称していたので橋から外へ出る道を「竜津」といっている。門口の橋を「通津」という。賊軍が入って来た時は橋をあげて了うことができた。各地に「竜津」の名称があるのは（广州市）（澳門）城の前の道を指している。この門と城門の橋を併せて津竜通津といっていたので略して「竜津」という。城内には「竜氣」があって門から出入りしていると考えられていた。九竜砦では門から橋を渡って九竜湾に至る道を竜津道といい、その先に埠頭があったので「竜津石橋」といい、待合所があったが、それを「竜津亭」と称していた。竜がいる城内から通う道であるという意味もあった。魯金：「九竜城塞史話」、'88、12、三聯書店、香港

香港の街巷名について（藤島）

5

香港の街巷名の特徴の一つに大陸の省名や県鎮名、景勝地名を付けたものがある。いや、大陸の諸都市をみても、この傾向があるので中国では一般的傾向といえなくもない。出身地のアイデンティティがより強かったともいえる。北京市でいうと長安街、蘇州街、上海市では西藏路、四川路、天津市では紹興道、鞍山道、長春では西安大路、吉林大路、广州市の北京路などの例がある。然し、各の都市と比較しても香港は数量では多い。この事は香港の人の出身が多様であると同時に、大陸への郷愁の強さを思わせるものである。港島に残るのは、廈門街^① (Amoy St), 汕頭街^② (Swatow St), 新会道^③ (Sunwui Rd), 恩平街^④ (Yunping Rd), 開平道^⑤ (Hoiping Rd), 長安里^⑥ (Cheungon Lane), 奉天街^⑦ (Fungtin St), 南寧街^⑧ (Namning St), 西安里^⑨ (Saion Lane), 西安街^⑩ (Saion St), 太原街^⑪ (Taiyuen St), 湖北街^⑫ (Wupak St), 湖南街^⑬ (Wunam St), 蘇杭街^⑭ (Jervos St), この他に花園道^⑮ (Garden Rd), 白沙道^⑯ (Paksha Rd), 太白山街^⑰ (Taipaksham St), 太平山街^⑱ (Taipingshan St) などがあるが、大陸の特定の地域と関係があるものと、単なる大陸的発想にかかわるものとがあるように思われる。

九龍には省名、都市名など多い。吳松街^⑲ (Woosung St), 上海街^⑳ (Shonghoi St), 黃浦街^㉑ (Whampop St), 寧波街^㉒ (Ninpo St), 蕉湖街^㉓ (Wuhu St), 九江街^㉔ (Kiukiang St), 宜昌街^㉕ (Ichang St), 長沙街^㉖ (Changsha St), 大同街^㉗ (Taitung St), 大沽街^㉘ (Tanku St), 北京道^㉙ (Pakking St), 南京街^㉚ (Namking St), 北海街^㉛ (Pakhoi St), 南昌街^㉜ (Namcheong St), 桂林街^㉝ (Kweillin St), 桃源街^㉞ (Toyuen St), 通州街^㉟ (Tungchau St), 欽州街^㉞ (Yenchow St), 漢口道^㉙ (Hankow St), 深圳街^㉚ (Shamchun St), 福寧道^㉞ (Fukning Rd), 東莞街^㉟ (Tungkun St), 八達街^㉙ (patat St) があり、省名としては、四川街 (Szechuen St), 江西街 (Kinghsia St), 江蘇街 (Kingsu St), 山東街 (Shantung St), 貴州街 (Kweichow St), 山西街 (Shansi St),

香港の街巷名について（藤島）

甘肅街 (Kansu St), 雲南里 (Yunnam Lane), 浙江街 (Chiking St), 広東道^{④〇} (Canton Rd), 安徽街 (Anhui St) などがある。

大陸内と関連する街巷名は全て網羅できたと思わぬが、傾向を知る意味で列記したものである。当然、広東省と関連する街巷名が多い。これら街巷名を省毎に区分してみると次のようになる。（第6表参照）

大陸の地名と香港街巷名 第6表

市 （大陸）省	北京 市	上海 市	天津 市	廣 東 省	廣 西 壯 族 區	陝 西 省	江 西 省	江 蘇 省	安 徽 省	湖 北 省
名街 （香港） 数巷	3	4	1	9	4	3	3	3	3	3

市 （大陸）省	湖南 省	山東 省	浙江 省	福建 省	河南 省	四川 省	貴州 省	雲南 省	遼寧 省
名街 （香港） 数巷	3	2	2	2	2	1	1	1	1

これらの各省や市（直轄市を含む）の地名が、香港居民の血縁と地縁の背骨となっている。香港に地名のない省は黒竜江、吉林、内蒙古自治区、寧夏回族自治区、青海省、新疆維吾爾自治区と西藏自治区である。広東省は9か所ある。香港そのものが旧広東省であり、居民の多くが広東人と潮州人であることに據る。上海の出身者は少数であるが誇り高いこともあって比較的巷名が残っている。広西壮族自治区へ広東語が普及していることもあるが、珠江の上流に当たることもあって船舶航行による文化交流の激しく行われている地域である。又、海岸づたいに雷州半

香港の街巷名について（藤島）

島を廻ると北海市などは隣である。

陝西省は長安（西安市）の史的意義と民族意識が地名や街巷名に残ったものと思われる。

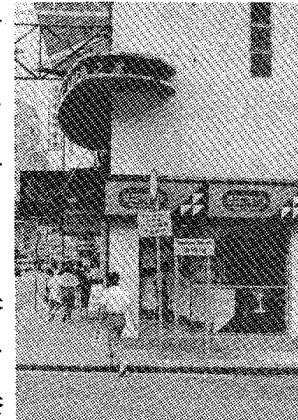
特に九竜に大陸名が多いのは、港島より遅れて開発されたのと、華南固有の集落が多かったことに起因すると思われる。

註

- ① Xiamen, 福建省南東部沿海の市名、台湾と向いあってい る港町、福州とともに海上交通の拠点である。明代以来 貿易港として知られる。華僑の地、ウーロン茶の産地と して知られる。人口100万、香港では福建人といわれる。 福佬の出身地、福建語を話している。
- ② Shanton, 広東省の東部の沿岸、韓江三角州の下流に位置 する。'80. 8 汕頭経済特区が設置されている。特別経済 区は「龍湖輸出加工区」といっている。香港からの空路 直行便もあり、香港の観光客も入る。一般に潮州とは 韓江下流の汕頭や潮安一体を指している。香港でいう潮 州人の出身地でもある。人口約75万人、香港では潮州料 理が知られ、潮州幫は主に米穀の取引をしていた。
- ③ Xinhui, 広東省の南部、珠江三角州の西部の県名潭江の 下流で人口は約80万人、華僑の故郷の一つでもある。香 港では、この新会と台山と開平、恩平の4つの県の出身 者を四邑人と称している。四邑人が主に居住したのは港 島の湾仔（Wanchai）付近であった。
- ④ Enping, 広東省の南部県名、珠江三角州の西部、潭江の上流、華僑の地、人口 は約40万人、香港では四邑人といわれる。県の政府は恩城鎮にある。
- ⑤ Kaiping, 広東省の南部の県、珠江三角州の西部、潭江の中流、華僑の地、人口 は約60万人、香港では四邑人といわれる。県の政府は三埠鎮、水陸交通が発達 している。華僑の出身地、四邑人は香港人口の約5%といわれている。なお、 河北省の唐山市の北にも石炭を産出する開平という鎮がある。しかし、ここでは広東の開平とみるべきである。
- ⑥ Chang'an, 陝西省西安市南部の県名や廣西壮族自治区の北部に鎮名としてあるが、 陝西省西安市の古名である長安とみるべきであろう。北京市の長安街は別に、 十里長街といわれ、十里（5 km）あるといわれる幹線道路、国慶節のパレード



廈門街①

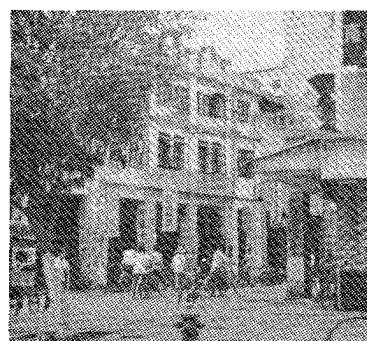


汕頭街②

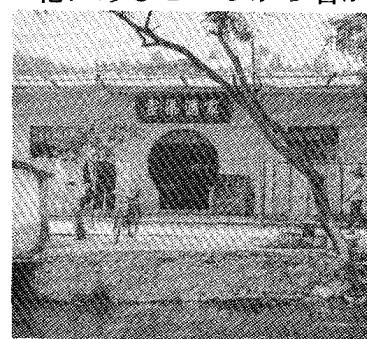
香港の街巷名について（藤島）

が行われたりする。従って、長く平和であるようにとか、長い道であるとか、いくつかの意味と唐代の長安の都とかけているとみるべきであろう。単に地名を輸入しただけではない。

- ⑦ Fengtian, 東北地方、遼寧省の瀋陽市の古名、省政府の所在地、清代に盛京と称し、承德県が設けられて奉天府の治所となる。1914年瀋陽県と改められている。
遼寧省：「中国的遼寧」、遼寧美術出版、'82、瀋陽市
- ⑧ Nanning, 広西壮族自治区南部の市名、省政府の所在地、珠江の上流西江の支流である鬱江の沿岸にあり、経済、文化、交通の中心地である。内航は西へ百色や竜州まで延び、東は梧州から広州市へ出ることができ物資の集散地として名高い、広東語の文化圏に入っているので、珠江三角洲へ出てくることは容易である。人口約60万人
- ⑨ Xian, 陝西省渭河平原の中にある市、省政府の所在地、西周、秦、西漢、隋、唐の都、中国の古都、漢代に長安県、明代に西安府となる。1943年西安市となる。
- ⑩ Taiyuan, 山西省の中部の市名、太原盆地の北端にある。省政府の所在地、春秋時代の晋陽といわれた。北方民族侵入阻止のためつくられた城塞都市、1949年以降城壁がとりこわされ郊外へ工場と住宅が建設されている。石炭と鉄鋼石の産地として知られている。人口約230万人。
- ⑪ Hubei, 省名、略称を鄂という。長江の中流、洞庭湖の北にあるところから名がついた。省政府は武汉市、人口約500万。
- ⑫ Hunan, 省名、略称を湘という。長江の中流、洞庭湖の南にあるところから名がついた。省政府は长沙市、人口約550万人、北江の上流で広州へは南下できる。古くは湘江をの遡ぼって靈渠に出て漓江を下り梧州から広州へ出た。
- ⑬ 蘇州と杭州を併せたものである。正式名は乍畏街という。中環にあって古くは絹織物の問屋が並んでいた海浜通りである。蘇州も杭州も中国を代表する絹織物の産地であったこと、上海出身者が仲介していたといわれる。夏歴：「香港中区街道故事」三聯書店、'89. 5、香港。
- ⑭ 花園はよく用いられる。大陸には河南省の鄭州の北部に同名の鎮がある。九竜にも Huayuan St. がある。港島には Chifufa Yuen (置富花園) とか Hong yee. (康怡花園) とかあるが、薄扶林花園 (Pokfu lam Gardens) のように Gardens の訳語に用いたものと思われる。ホテル名などにも用いることが多い。従って大陸



南寧市(広西壮族自治区)⑧



靈渠(広西壮族自治区)⑫

香港の街巷名について（藤島）

地名から直接の関係があるとは思われない。

- (15) Baisha, 海南省黎族苗族自治州の北部の県名であるが、これは文字から白い砂と解釈して白砂の海岸に命名されたものであろうと思うのである。海南省でなくても地名としては各地にある。
- (16) Taibaishan, 陝西省太白県の県名にあるが直接輸入したものとは思われない、太白星(Taibaixing)とは金星のことでもあるので宵の明星を指したりすることから地名となることが多い。
- (17) Taipingshan, 安徽省南部の県名や江蘇省長江の中州などに同名があるが社会が平安であるという意味から巷名にされたものとみるべきであろう。
- (18) Wusong, 上海市西部の河名「吳淞江」より、ただ香港では「吳松」と「松」を用いている。黃浦江の河口の西岸にある。'59年吳淞区になり、のち揚淞区に編入されている。
- (19) Shanghai, 上海市出身者は香港では3%に満たないのであるが、港島では北角(North point)と九龍半島東部の紅磡(Hung hom)付近に集中していた。九広鉄路の九龍駅は別名を紅磡駅といっている。この上海街は油麻地(Yaumatei)のMain Stを形成している。香港では上海料理が知られ上海幫の組織では主に紡績工場や琺瑯製品の工場が属していた。
- (20) Huangpu, の地名は広東省の省都广州市の東部の黄埔区、广州市の外港で東江の河口にある港町と上海市内の河川名とが有名である。ここでは後者の上海市との関係である。紅磡(Hung hom)には、黄埔新邨(Wongposun Tsuen)や黄埔花園などの地名がある。広州の黄埔島は古く黄埔軍校があったことで知られている。現在の長州島にあった。正しくは陸軍軍官学校という。孫中山の創建になる。
- (21) Ningbo, 浙江省東部沿海の市名、杭州の東140km、甬江と余姚江の合流点に発達した貿易港、人口約100万人、唐代から宋代にかけて繁栄して、「小上海」(Xiaoshanghai)の別称をもっている。遣唐使の上陸地点、鴉片戦争後は英の占領下にあった。
- (22) Wuhu, 安徽省東南の市名、長江下流の沖積平野、水陸交通が発達している。人口は約100万人、九龍の紅磡の北側にあり、マーケット(街市)を形成している。



白 沙(海南省)⑯



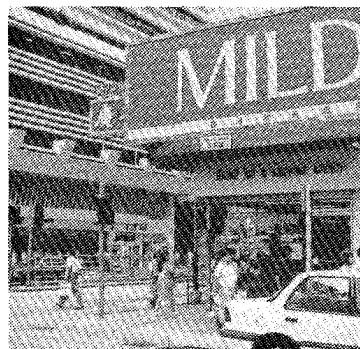
吳 松 街⑰



上 海 街⑯

香港の街巷名について（藤島）

- ㉓ jiujiang, 江西省の北部にある市名, 長江南岸で河港である。人口は約38万人, 更にもう一つ江西省北端の県名もある。人口も約35万ある。ただ, この地名が南下したか否か疑わしい。九竜伝説の如く, 九と江を結びつける連想は常にがあるので, 曲っている坂道や河道などには命名しやすいとみている。
- ㉔ Yichang, 湖北省西部の市名, 武漢市の西面, 周囲は山に囲まれている。人口約38万人。
- ㉕ Changsha, 湖南省東部の市名, 省都, 湘江の下流, 人口約250万人, 同じく湖南省東部の県名, 湘江の下流, 人口約75万人, 湘江の上流から桂林(広西壮族自治区)漓江から西江, 珠江への道は古くから用いられていたので, 人の動きは容易であった。漓江は古く灘江と書いている。
- ㉖ Datong, 山西省北部の市名, 北魏の初めは都がおかれて, 内蒙古と接していた。同じく北部の県名, 桑乾河上流で人口は約15万, 炭鉱と雲崗の石窟で知られている。人口の半数が炭鉱で働くといわれている。雲崗は大同城の西の武周山の北崖, 北魏和平元年(460)太和18年(494)の間につくられた石窟53所, 仏像10万余ある。
- ㉗ Dagu, 1つは山東省の河名, 1つは天津市東部, 海河の河口の南岸で, 天津の外港である。付近から「長蘆塩」が産出とすることで知られていた。
- ㉘ Beiiing, 北京は国都として知られる, 中国古都の一つである。香港や台湾の一部の人は「北平」とも称する。「京」は「南京」とする考え方がある。
- ㉙ Beihai, 広西壮族自治区南部の市名, 漁業基地, 人口約20万人, 北部湾に臨む, 北部湾とは中国の呼称で雷州半島と海南島に囲まれた西側の海域でベトナムはトンキン湾といっている。古くから水上生活者は香港との交流がある。ベトナムの難民も多く居住している。この海域は石油探鉱がさかんで, フランスの国営石油と中国南海分公司が採油している。日本の出光中国石油開発も1鉱区入札している。
- この他に古く春秋戦国時代今の河北, 山東省の辺疆の地あった渤海を「北海」と称していた。(左伝・僖公四年)。秦漢代以来塞北の大湿地帯を「北海」といっている。今のソ連領内(漢書, 蘇武伝)を指しているが, 華北の地が引用されたとは思わない。
- ㉚ Nanchang, 江西省北部の市名と同市南部の県名, 市は省都で人口約300万, 県の



北京道㉘



北海街㉙

香港の街巷名について（藤島）

人口は約70万人である。贛江の下流に位置している。

- ⑬ Guilin, 広西壮族自治区北東部の市名, 漓江西岸の街, 秦の始皇帝が靈渠を開発してのち湖南からの中継地となる。石炭岩地帯で独秀山や象鼻山など侵食された奇岩が多く「桂林山水甲天下」と称される。日本軍が戦時中街を空爆したことがある。

人口約70万人, 香港の人も多く訪れる。



桂林(広西壮族自治区)⑬

- ⑭ Taoyuan, 湖南省北部の県名であるが, 各地に同名の村があるので, 特定の村をさしたというよりは, 一種の憧憬と望郷の念で命名したものと思われる。

- ⑮ Tongzhu, 北京市東部の旧市名

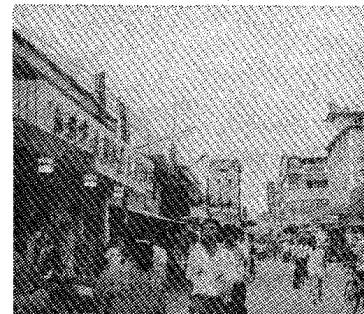
- ⑯ Qinzhou, 広西壮族自治区の南部にある市名, 北海市とともに北部湾に臨む, 香港と古くから海運による交流がある。水上生活者の交流も行われていた。人口は約86万人。

- ⑰ Honkou, 湖北省武漢市の漢口区, 古くは独立した都市, 長江と漢江の合流点の北に位置している。武漢は湖北省の省部。古来武漢三鎮といわれ, 武昌, 漢口漢陽が合併した。武漢になったのは新中国成立とともにであるから, 漢口を地名にするのはそれ以前の出身者がいたことになる。漢口は古く「夏口」といわれ, 広東の仏山, 江西の景德鎮, 河南の朱仙鎮と並んで全国四大鎮といわれた。



漢口街道⑮

- ⑯ Shenzhen, 広東省南部の市名, 深圳川で新界と接している。'80. 8月経済特別区を設置, 面積327km², 人口約30万, 日本から蛇口へ三洋電気, ソニーなどの合弁会社が進出している。



深圳市(広東省)⑯

- ⑰ Funing, 福建省北東の湾名, 福瑤湾ともいっている。霞浦県の北, 湾外に大嵛山と四礵列島がある。漁業基地として知られている。華僑の多い地方もある。

- ⑲ Dongguan, 広東省東南部の市名, 珠江口で東江の下流にある。古く香港はこの東莞県に属していた。林則徐が鴉片を焼却した虎門の城塞で知られている。最近は工業地帯に再生している。古くから東莞は香材を集め輸出したとして知られている。東莞麺は有名である。客家の人々も集っている。

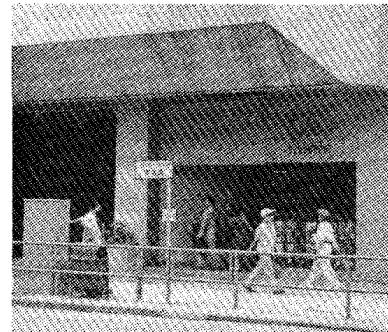


東莞市(広東省)⑲

香港の街巷名について（藤島）

客家料理は香港でも知られている。客家幫という相互扶助組織がある。

- ⑨ Bada, 北京市北西郊外の山峰の名「八達嶺」は万里の長城でよく知られている。しかし、特定の地域の名称ではなく「四通八達」の意味の方が強いのではないかと思われる。
- ⑩ Guangdong, 略称は粵, 省政府は広州市, 人口は約600万といわれる。古く百越の地で、唐代は嶺南と呼ばれている。香港はもともと広東省に属していたので、社会そものも広東人社会で、普通は広東語を話している。冒険的で短気で、あっさりした気質で、散りぎわは木綿花（カポック）の赤い花のようであるといわれている。広東料理は有名である。香港では広東幫をもっていて、織布、衣類、食品、造花などの職業的な地縁の連携をもっていた。
- ⑪ 隋の開皇十一年（591）循州（今の惠州市の東）を分けて潮州を置く。治所は海陽（今の潮安）である。



廣 東 道⑩

6

香港の街巷名の特徴の一つに、集落が個々に独立していたものが、急速なる都市化で、集落が隣の集落と連結し独自性を失って行ったものも少なくない。しかし、街巷名を見ると類似名が集中していて旧集落構造が想定できるものがある。都市化の遅かった新市鎮が顕著であるが、港島や九龍にも残存している。

これら類似巷名を新田鎮からみてみよう。先ず、沙田（Shatin）からであるが、沙田は街市街（新城市広場）と住宅団地と山上の城壁村から構成されている。特に曾大屋（Tsangtoi UK）はよく知られている。城門河^①（Shingmun River）に囲まれた大圍（Taiwai）付近には「積（Chik）」名の街巷が多い。積壽里（Chiksau Lane）、積輝街（Chikfai st）、積運街（Chikwant st）、積德街（Chiktok st）、積祿里（Chiklok Lane）、積泰里（Chiktoi Lane）、積富街（Chikfu st）、積福街（Chikfuk st）、積信街（Chikshun st）、積存街（Chiktsuen st）がある。同じ沙田の銀喜花園

香港の街巷名について（藤島）

(Jubilee garden) の北部は「樂 (Lok)^②」巷名が集中している。樂林路 (Loklam Rd), 樂園徑 (Lokyuen path), 樂景街 (Lokking st), 樂城街 (Lokshing st), 樂蓮徑 (Loklin path), 樂霞坊 (Lokhar squer), 樂賢道 (Lokyin Rd), 樂楓徑 (Lokfung path) などがある。

屯門 (Tuenmun)^③ にも類似街巷名が集中している。東晋代建立の青山禪院 (Chingshan Monastery) が在ることもある。青山湾 (Chingshanwan, castll peak Beach) の「青山」や「青」に関する街巷名が多い。青山村^④ (Chingshan Tsuen), 青山公路 (Castle Rd), 青山湾段 (Castle peak Bay), 更に青松仙觀 (Chingchung koon) と置楽花園 (Chilokfa yuen) に囲まれた地域では「青」を冠している。青松徑 (Csingchung path), 青松觀路 (Csingchungkoon Rd), 青綠街 (Csinglok st), 青海街路 (Csinghoi circuit), 青湖坊 (Csingwu sq), 青菱徑 (Csingling path), 青麟路 (Csinglun Rd), 青康路 (Csinghong Rd), 青賢街 (Csingyin st), 青新徑 (Csingsan path), 青河坊 (Csingho sq), 青滙街 (Csingwui heung), 青杏街 (Csinghang path), 青葉街 (Csingyip st), 青山坊 (Csingshan sq), などがある。

又、元朗 (Yuen long)^⑤ の青山公路の元朗段の南には「福 (fook)」と「鳳 (fung)」を冠した街巷名が多い。縁起のよい文字や目出たい文字を選定するのは古くからの習慣である。文字は単なる記号ではなく神域に達すると考えられている。福は福, 祿, 寿神につながる。福日徑 (Fookyat path), 福康街 (Fookhong st), 福德街 (Fooktak st), 福喜街 (Fookhi st), 凤攸南街 (Fungyou st, s), 凤香街 (Fungheung st), 凤琴街 (Fungkam st), 凤群街 (Fungkwant st), 凤攸北街 (Fungyau st, N), 凤攸東街 (Fungyan st. E), 凤翔路 (Fungcheung Rd) がある。この他に屯門の「屯」、元朗の「元朗」、「西貢」、馬鞍山地 (Maon shan)^⑥ では「馬」、上水では「新」^⑦ の名を冠したものが集中している。

新市鎮ほど顕著ではないが、九竜にも類似街巷名がある。その代表的

香港の街巷名について（藤島）

なものを列記してみる。先ず土瓜湾（Tokwa Wan）に沿って、環利街（Wanlei st），環發街（Wanfat st），環景街（WanKing st），環順街（Wanshun st），環樂街（Wanlok st），環福街（Wanfuk st），環興街（Wanhing st），環達街（Wantat st），環安街（Wanon st）などがある。鳳凰新邨（Fungwongchuen）には、「鳳」の街巷名が集中している。元朗の「鳳」とは異なって、最初の文字は鳳以外の字を用いている。又、何文田（Homantin）には「常（Sheung）^⑧」を冠したものが多く、油麻地（Yaumatei）の埋立られたバス渡海碼頭（Ferrypier）のある一角は「文（Man）^⑩」の街巷名が多く、樂富（Lokfu）駅近くの樂富邨には「富（fu）^⑨」の名が冠せられている。牛頭角（Ngautaukok）の偉業街（Waiyip st）と啟福道（Kaifuk Rd），啟祥道（Kaicheung Rd）に囲まれた地区は「臨（Lom）^⑪」が多い。港島は新市鎮や九竜と比較すると集中規模は小さい。北角（North point）の丹拿山邨（Tanner Hill EST）の山麓には「繼（Kai）^⑫」の巷名がある。繼園街（Kaiyuen st），繼園上里（Upper Kaiyuen Lane），繼園下里（Lower Kaiyuen Lane），繼園臺（Kaiyuen Terrace）がそれである。香港仔（Aberdeen）は古い漁村であったこともあって「漁（yue）^⑬」の巷名がある。漁光道（Yuekwong Rd），漁利街（Yuelie st），漁康街（Yuehong st），漁暉街（Yuefai Rd），漁歌街（Yueko St），漁獲街（Yuewok St）の巷名が付いている。同じ香港仔の西部、華富邨（Wahfu EST）は「華（wah）^⑭」の巷名が多い。田湾邨（Tinwan EST）には「田湾」^⑮を冠したものが集中している。太古駅から西湾河（Saiwanho）駅にかけては「太（Tai）^⑯」の巷名が多い。

鰂魚涌（Quarry Bay）には「海（Hoi）」の巷名が多い。海利街（Hoilee st），海晏街（Hoion st），海康街（Hoihong st），海堤街（Hoitai st），海寧街（Hoining st），海澄街（Hoiching st）などである。西營盤には「西（Sai）^⑰」の巷名が多い。西安里（Saion Lane），西尾台（West end Terrace），西尾徑（Westend path），西華里（Saiwan Lane），西湖里（Saiwoo Lane），

香港の街巷名について（藤島）

西源里（Saiyuen Lane）、西興里（Saihing Lane）などがある。

これらの巷名をみると縁起や発財（富を得る）といった語がよく用いられている。福康街、新康街、青康路、常康街、漁康街、海康街、太康街といった「康」や「樂」、「福」、「徳」、「安」、「富」、「鳳」といった文字が用いられている。^⑯ 街名などは外来語の発音に近い広東語を当てるが、巷名には香港居住者の願望が表れているとみてよい。これは又、路地そのものが日常生活の場であったことを示している。

註

- ① 城門河を通り沙角街にある。1850年石工曾貫万が一族の住む村を造ってレンガで囲んだ城塞、四隅に砲台をもっていた。客家城塞といわれる。沙田は又福佬（鶴佬、学佬）の人も少くなかった。水上生活している者もあって長洲島、坪洲島、大澳などの人を入れると6万人に達するだろうといわれている。福建語と閩南語を用いている。
- ② 香港では「富」や「福」や「財」に対して強い執着がある。「積存」（Jicun）というのも積蓄（Jixu）のことで貯蓄をすることである。それぞれの巷名が居住民の願望となっているところが妙である。
- ③ 屯門は軍が駐屯して護る門口（入口）に語源があるといわれ春秋戦国代既に塩田があったといわれている。そのため塩田を護る兵士が派遣されていた官塘も同じような意味がある地名である。唐から宋にかけては広州貿易の中継地として栄え、明代はポルトガル人が上陸し、清代には鴉片を運ぶ基地として利用されたといわれる。古い漁村である。今はベットタウンとして高層のアパート団地が林立している。
- ④ 「青山」については1894（M27）5月香港にペストが大流行し、日本から伝染病研究所の北里柴三郎と当時東京大学医学部教授青山胤通らが研究に従事して病原菌を発見し撲滅に尽力した。青山胤通は自からペストにかかり死亡、この徳を偲んで地名にしたという説が日本では流布しているが、この屯門に限り、疑わしい。香港では否定する人が多い。
- ⑤ この他同じ屯門で、鳴琴路（Mingkum Rd）の北では「建（Kin）」、南では「景（King）」のつく街巷名が多い。「建」の方は建泰街（Kintai st）、建群街（Kinkwan st）、建基街（Kinkee st）、建隆街（Kinlung st）、建豊街（Kinfung st）、建国街（Kinckok st）、建栄里（Kinwing st）、建發街（Kinfat Lane）、建旺街（Kinwong st）、建安街（Kinon st）などがある。「建」は建造するのに指を北斗星へ指すこともいう。「景」も又、景色の他に景星として用いられてめでたい星（瑞星）として用いら

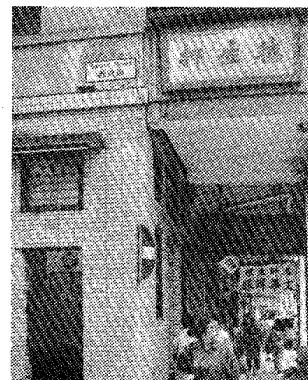
香港の街巷名について（藤島）

れます。

- ⑥ 元朗は古くからの城壁村である。錦田吉慶圍 (Kamtin kat hing wai) は有名だが、これは北宋代南遷した漢族の鄧符協が鄧一族の村をつくったものである。鄧一族は北圍、南圍、永隆圍、泰慶圍なども造ったといわれる。
- ⑦ 新功街 (Sankung st), 新財街 (Santsoi st), 新勤街 (Sankanst), 新康街 (Sanhong st), 新建街 (Sankin st), 新樂街 (Sanlok st), 新成路 (Sanshing Ave), 新發街 (Sanfat st), 新祥街 (Sancheng st), 新豊街 (Sanfung Ave) などがある。
- ⑧ 環鳳街 (Wanfung st), 銀鳳街 (Nganfung st), 雙鳳街 (Sheungfung st), 金鳳街 (Kanfung st), 龍鳳街 (Lungfung St), 翠鳳街 (Tsuifung St), 鳴鳳街 (Mingfung St), 飛鳳街 (Feifung st), 盈鳳里 (Yingfung Lane), 例外として鳳德道 (Fungtak Rd) がある。鳳徳とは聖人君子の徳をいう。香港では「鳳」の料理というとトリ料理である。
- ⑨ 常和街 (Sheungwo st), 常樂街 (Sheunglok st), 常康街 (Sheunghong st), 常盛街 (Sheungshing st), 常富街 (Sheungfoo st) などがある。
- ⑩ 文英街 (Manying st), 文成街 (Manshing st), 文苑街 (Manyuen st), 文明里 (Manming Lane), 文昌街 (Mancheong st), 文滙街 (Manwai st), 文蔚街 (Manwai st) などがある。なお海南省に文昌 (Wencheng) 県があるが、(漢代の珠崖の地) この場合特に関係がないものと思われる。又、広東省惠来県の南にも文昌山がある。文昌星とは北斗の第一星で学問を司る星といわれる。科挙の時にこの星に祈ったという。又、文苑とは文人の社会のことをいう。
- ⑪ 富強街 (Fukeung st), 富美街 (Fumei st), 富美東街 (Fumei st. E), 富美西街 (Fumei st. W), 富茂街 (Fumou st), 富寧街 (Funing st), 富安街 (Fuon st) などがある。
- ⑫ 牛頭角道 (Ngautau kok Rd) にはじまって牛頭角第一街 (Ngautau kok 1st, st), 牛頭角第二街 (Ngautau kok 2nd, st), 牛頭角第三街 (Ngautou kok 3rd, st), 牛頭角第四街 (Ngautou kok 4th, st), 牛頭角第五街 (Ngautou kok 5th st) と揃っている。牛頭の意味は地獄の前にいる鬼の1人。初七日には現世へつれて来る案内役の鬼、もう1人の鬼は馬面という。牛頭天王 (ごずてんのう) というのは祇園精舎の守護神とされている。
- ⑬ 臨興街 (Lowhing st), 臨福街 (Lamfuk st), 臨豐街 (Lamfung st), 臨利街 (Lamlee st), 臨華街 (Lamwah st) などがある。
- ⑭ 華昌街 (Wahcheung st), 華富道 (Wahfu Rd), 華林徑 (Wahlam path), 華樂徑 (Wahlok path) がある。華という字はもともと人間の顔を表したものであるといわれ、人の顔の真中即ち中華という、中華思想は別意味で普及しているが、本当の人間のあるべき真ン中ということから発している。華昌は中華民族の繁栄を意味する。

香港の街巷名について（藤島）

- ⑯ 田湾海傍道 (Tinwan praya Rd), 田湾街 (Tinwan st), 田湾新道 (Tinwan new st), 田湾山道 (Tinwan Hill Rd), 田湾徑 (Tinwan close) がある。
- ⑰ 太古城道 (Taikoooshing Rd), 太古湾道 (Taikoowan Rd), 太安街 (Taion st), 太祥街 (Taicheong st), 太康街 (Taihong st), 太裕路 (Taiyee Ave), 太寧街 (Taining st), 太富街 (Taifoo st), 太豐路 (Taifung Ave), 太茂路 (Taimou Ave), 太榮路 (Taiwing Ave), 太樂路 (Tailok Ave) などがある。太はいろいろな意味があるが「太平盛世」とか「太平無事」とかいう意味に用いられるが、一般には目上の人に用いる接頭語として用いられる。なお太古は無論上古のことである。
- ⑱ 「西」にも種々の意味があるが単に東西南北の西ということもある。ただ香港では海中には東海竜王, 南海竜王, 西海竜王, 北海竜王がいるので東南西北の順である。又, 四遊記の西遊記には孫悟空と觀音さまを神様としている。従って, 大陸の「西方」とか「西天」とは少し異なっている。なお新市鎮の西貢や九竜の油麻地にある西貢街は越南の Saigon である。文中にある「西華」の地名は大陸にもあり, 河南省の中部東寄りにある県名, 古くは「黃浜区」といわれて黄河が氾濫する常習水害地であった。大陸と関係あると思われるのが「西湖」である。西湖は大陸では有名な観光地である。香港の人にもよく知られている。意識的に命名されたふしがある。代表的な西湖は3ヶ所あって, 1つは杭州市街の西にある。漢代には明聖湖, 唐代から西湖といわれている。古い杭州湾の一部であったが堰止められてできたものである。湖の中に堤があって外西湖, 里西湖, 後西湖, 小南湖, 岳湖に分かれている。「西湖十景」が有名である。福州市の西にある湖, 晋の太康によって開削されたという, 唐末には25kmの周囲があったというが, 泥が堆積して今では2km, 公園となっている。更に1つは広東省の惠州市の西にあって, 芜湖, 鷺湖, 平湖, 豊湖, 南湖の5つの湖の総称である。香港の巷名は各れかを意識したものと思われるが, 特に杭州市の西湖の影響とみる。
- ⑲ 生活の「安」定や「幸」福, 健「康」を考えている。「康楽」とは幸福のことである。「福」や「祿」や「寿」は七福神(八仙)と関係があり, 福老人, 祿老人, 寿老人と関係があり各ぞれ神様となっている。寿老人神は南極仙翁といい, 人間はこの神によって生まれたと考えたりしている。
- ⑳ 夏歴:「香港中区街道故事」三聯書店有限公司, 1989。香港には香港島における英語名が広東語にどう変化したか説明されている。殊に19世紀の香港の歴代総督 (Governor) の内, 初代総督(初めは貿易監督官であった) Sir Henry Pottinger が砵甸乍に, 第3代の総督の Sir Samuel George Bonham が般咸或は文咸街に,



西貢街(九竜)⑰

香港の街巷名について（藤島）

第4代の総督の Sir John Bowring が宝寧に第6代 Sir Richad Graves Mas Donnell が麦当勞道、第7代 Sir Arthur Edward Kennedy が堅道、第8代 John Pope Hennessy が軒尼詩道となっている。（G. B. Endacott: Government and People in Hong Kong 1841～1962, A Constitutional History, Hong Kong University Press 1964 などによる。）

7

香港の街巷名には種々の型があるが、これを整理してみると、本来大陸の延長上の集落として街巷名があったものに、関係の全くない英語名が付いたもの、例えば鴉片収容所へ Castle peak と、その先の青山道まで Castle peak Rd になったり、^① 浅水湾が Repulse Bay であったりする。又、英語人名などが先行したため、英語発音に似せた広東語で表記したもの、Nathan Rd. を彌敦道、kimberley St を金巴利道 ^② Mody Rd を磨地道^③ としたものである。^④ 更に英語街巷名を広東語で翻訳したもの、king'sRd を英皇道、Bank St を銀行街 Midde Rd を中間道、Oil St を油街、Elm St を榆街、Electricst を電器街としたなど例が多い。この他に当然であるが広東語表記のもの、通菜街 (Tungchoi St)、白布街 (pakpo St)、^⑤ 黑布街 (Hakpo St) などがある。ただ、上海街 (Shanghai St) や漢口道 (Hankow Rd)、蕪湖街 (wuhu St) のように国語（普通話、北京語）にひきづられるものもある。

街巷名の分類は時間を要するものと思われるが、香港には例外として華南式の街巷名が現存した地区がある。英中関係の象徴といわれ、植民地に抵抗して大陸の一部であると主張した飛地の九龍城（Kowloon Walled City）である。長い間「三不管」の地とし治外法権の地域となり多くの社会問題を孕んでいたが、'87年に香港政府が正式に取壊しを決定し施行を開始している。この九龍城の街巷は植民化計画外で、居住民の意思と都合によって設定したものである。街巷名も中国流の命名で殆んどがその理由が明白である。ただ、大楼が建つと巷名が変更されたり、大楼が機能を果さなくなると巷名が消滅したり、城壁の東、西側

香港の街巷名について（藤島）

へ居室を増築されたりすると巷名が消失したりする。香港では唯一の嶺南風の街巷名を残していた地域ともいえる。この街巷名について少し觸れ一つの型について考えてみようと思う。

九竜城の街巷は約30個ある。大道の組立をみると、東西走向に東頭村道、竜津路、竜津道がある。南北走向に東正道、竜城路、光明街、老人街、大井街、西城路となっている。^⑧ 東頭村道と竜津道は城壁であったから巷はない。^⑨ ほぼ中央の竜津路には竜津後街、竜津一巷、竜津二巷、竜津三巷、竜津尾巷、竜津横巷の6巷がある。^⑩ 南北走向の竜城路には竜城一巷、竜城二巷、竜城三巷があったが、外壁へ増築が進み各れも廃路となっている。香港における類似名を既に指摘したが、街と巷の関係が互に依存して命名されていたものである。西側の西城路には7巷あって、西城横巷、西城二巷、西城三巷、西城四巷、西城五巷、西城六巷、西城七巷である。内四巷から七巷までは後に巷名を変更している。大井街は5巷あって、大井三巷、大井四巷、大井五巷、大井六巷、大井七巷とある。老人街は6巷あって、老人街一巷、老人街二巷、老人三巷、老人後巷、老人横街、老人後巷となっている。

^⑪ 東側の光明街には3巷ある。光明一巷と光明二巷、光明三巷である。この他に単独で命名された巷が6巷ある。天后廟街、天后廟後街、^⑫ 義學街、^⑬ 社公街、^⑭ 長安里、長興里である。

九竜城は九竜城塞ともいわれ九竜半島の原名でもある。街巷名の竜津道や竜城路の「竜」は九竜城内を指し、「竜氣」の集積される処が中央の老人院前面にあって、九竜司衛門が置かれていた。城門を出て九竜湾へ延びる道を「竜津」と呼び桟橋が海上へ尖出していた。城壁の外側には水濠があり撲ね橋がかかっていた。これが竜城道である。光明街は日の射さぬ路地で蠟燭の灯で暮していた鴉片中毒者の「追竜」が居住していたことから命名されたものである。老人街は九竜沿岸を管轄とする役所衛門があった処で、役人居住区でもあり砲台を置いた。1950年代に入

香港の街巷名について（藤島）

って、衛門が崩壊する危険があると撤去し、そこへ棟割の老人院を創設した。以後、老人街と呼称するようになった。最初は小規模の郷村式集落を形成したのであるが、後には食品製造工場が造られたりして、九竜城内唯一日射の入いる巷と変化した。大井街は九竜城形成以前の街路で飲料水の運搬路でもあった。^⑯ 大井街八号興發路の北側の井戸が大井で、居住民と駐兵が利用した。後にコレラが発生して井戸が閉鎖され、上水道が敷かれている。上水道には各蛇口毎に番人がいて、水の管理をした、これを「街喉」と呼んでいる。社公街は社公神を祀った処といわれ、大井街十三号楼の後だったというが、神壇は発見されていない。もともと華南の農村神であるから、農村出身の移住民が持込んだものと推測されるが、祭祀儀礼についての記録も残っていない。西城路は最初に英語名が付けられ、それを翻訳したものというが、最初の英語巷名は不明である。九竜城の西側の道というので、何時の間にか西城路と呼称するようになったといわれる。西城路は初め8巷あったが、後には4巷となっている。東正道側と同じように九竜城の城壁の外側へ流入民の住居が増設されて、巷の上にも建築され巷が埋没してしまったのである。

西城路の長安里は、もと大井四巷の西端なのであるが、途中に長安大楼が建築され遮断されたものである。巷名は長安大楼から名付けられた。西城路の長興里は九竜城以前に西頭村長興里であったものが巷名となって残ったものである。老人街の天后廟街も天后廟後街も古く天后廟の置かれた処である。^⑯ 香港では銅鑼湾（Causeway Bay）の天后廟道と九竜の油麻地の天后廟街と並ぶ聖地と考えられている。義学巷は義学大楼のある処で、竜津義学と称されている学校の所在地である。九竜城の竜気が集る処でもあったというから、九竜城の核ともいえる。（第1図参照）

九竜城内街巷名は各々理由が有って命名されたものが多く、街巷の構成も華南の各都市と同じように組立てられている。香港の他の地域は例外であると思われる。然し、一方では香港の街巷名の多様さは、香港の

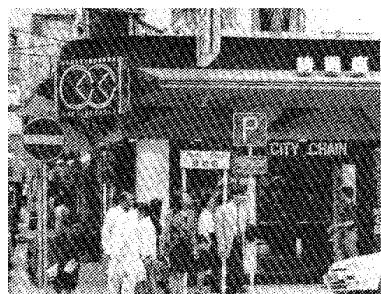
香港の街巷名について（藤島）

政治、経済、文化の多様さと、その歴史の過程を物語っているものと思われる。更に、1997年以降香港の街巷名が如何に変わらざるを得ないのか深い興味を持っている。特に英名、英地名、英人名他外人名の街巷の変貌を刻明に記録しておく必要があるようと思われる。これは又、居住民の生活の記録でもあると思うのである。

香港には通称、俗称、別称といった街巷名も少くない。居住民のため巷名の上に外国名が載った重層構造の街巷名が、歴史の転換期を迎えて如何に変動するのかに就いても興味を持っている。機会をみて再考したいものと考えている。

註

- ① 浅水湾は香港の古い地名、そこへ上陸して敵を撃退したので、リパルスベイと英軍は名付けた。白砂青松の浜である。現在砂浜周辺工事中、背後には大邸宅高層マンションがあつて香港第1のリゾート地として知られている。この他に銅鑼湾がCauseway Bay. だつたり、赤柱がStanley. 香港仔がAberdeen だつたりする。香港の人は香港仔はHong Kong Tsaiとは呼ぶが、正式には関係のない地名が互に1つになって表記されている。Happy Valley が跪馬地もそれである。英人が馬場をつくったので跪馬地だったが、英人にすれば住みやすい処という願いがあった。
- ② この他にJordan Rd が佐敦道、Hennessy Rd が軒尼詩道となつたりしている。
- ③ 夏歴：「香港中区街道故事」の前掲書。香港大学の創設の項に詳しく経過報告されている。
- ④ この他、地名も入れて代表的なものをみると Austin Rd (柯士甸道) Salisbury Rd (疎利土巴利道), King's park (京士拍), Granville Rd (加連威老道), Kimberley Rd (金巴利道), Hillwood Rd (山林道), gascoigne Rd (加土居道), Chatham Rd (漆咸道), 麻地道(Mody Rd) ③ Nathan Rd (弥敦道) Jordan Rd (佐頓道), Public sa (公衆四方街), 意訳として Olympic Ave (世運道), New Territories (新界), Kennedy Town (堅尼地城), Hollandst (荷菊街)などがある。
なお第17代総督の夫人 Clementi を、広東語風に金文泰 (kam mantai) 訳したものである。港島の礼旗山 (Victory peak) 近くの徑を指している。
- ⑤ もともと広東語の地名であったものへ、英語を意訳して当てたと思われるもの



香港の街巷名について（藤島）

に中環が Central, 北角が Northpoint, 深水湾が Deep water Bay. がある。

- ⑥ 今まで例としてあげなかったものの中から、よく知られた地名と街巷名を列挙してみると彩虹 (Choihung), 船湾 (Shuenwan), 粉嶺 (Fanling — ここに Royal Hong Kong Golf Club がある), 鹿頸 (Lukkeng), 沙頭角湾 (Shataukok Hoi — 国境のゲートがある), 上水 (Sheung Shui), 万仏寺 (Manfa Tsg — ただ Temple of 10,000 Buddhas と書かれたりする), 道風山 (Tofung Shan), 石峽尾 (Shekkip Mei — 1956九竜暴動が起る, 難民アパートがある), 落馬州 (Lokmachui — 勒馬州ともいう), 錦田 (Kamtin, Kamtim Walled vill という錦田城門村があつて11世紀の城壁があつて鄧姓の居民で構成されていたが1899年に英軍の占領にあい抵抗したため城門が撤去されている。1925年に返還されている) 荔枝角 (Laichikok は古く荔枝が稔ったという, 海水浴場として知られたが, 今は官塘にかけて工業地帯となっている), 西洋菜街 (Saiyeung Choi St — 英名は water Cress といっている), 海防道 (Haip hong Rd) 羅湖 (Lowu) などがある。
- ⑦ 九竜地名語源について(a)黄大仙廟の九竜壁碑記に「九竜山脈」半島北部に在る。(b)清の嘉慶年間の仲振履は「虎門覽勝」にて「九竜山」とある。九人兄弟の漁師海へ入って山へ昇る。竜と化した神山のこととある。(c)後漢書の「南蛮西南列伝」に雲南九竜山の伝説があつて、九匹の子どもが竜と化す話がある。九竜山一名九隆山ともいわれる。哀牢山 (Ailao shan) の伝説である。(d)彭徳 (K. M. A. Bavnett) 新界の民生署長が「蛮書」引用して「九即後」「竜即坐」して九竜半島の地理的位置を示したものである。(e)魯金は九竜名成立時代 (最初記載明万曆元年1573, 新安県志) 郷村名「九竜村」成立重要防衛地、従つて、開村村民の命名になるか、九戸で開村し村民全て「竜」姓ではなかつたか、1戸に9人の子が生れ「竜」如く勇者になれと「村名」になったのではないか。なお雲南の九竜山伝説については陳輪笙：「解放前西双版納土地制度」(中国社会科学院出版社：1984, 自貢市) に詳しいが、魯金：「九竜城塞史話」前掲書を採用する。
- ⑧ 竜城路 (Lung shing Rd) は東正道と平行して南北へ抜けている外壁路である。この東側へアパートがはりついて外側が拡大してしまつて。南口には3つの楼 (東南楼, 東門楼, 益華楼) があつて入口が極端に狭くなつて。古くは南口の東門楼のところへ竜津路がでて來ていて「竜城」といった九竜城塞の東口城門になつていた。
- ⑨ 竜津道 (Lung Chun dao) 城壁を撤去した時に道路になつたもので1951年に完成している。両側に住宅が並んでいた。ここはいわゆる九竜城繁栄の基礎をつくつ



九竜城道(Kowloon City Rd)⑦

香港の街巷名について（藤島）

た処である。反社会的な集団が集まつた。はじめは「聚竜通津」上といつてゐたが、「道」が開かれ後面の「路」と区別され城南の門が築かれることになる1985年から当局が鉄線を張り集中していた住宅を竜津後街へ移動させている。

- ⑩ 竜津路 (Lung Chun Rd) 東西走向で竜津道の後面で、入口は東南樓と東門樓の下にかくれている。西の方へ行くにつれて少し斜めになって西城路と接している。1847年に開削されたといわれている。この付近では古い道路の一つである。広東省には同名の道路が多い（広州・澳門）これは古い建築様式では城壁の外に濠を掘り、そこへ橋がかけられていた。橋から城門まで「通津」といい、城へ入いる賊軍を橋を上げて退けたものである。城塞の入口を「竜津」といったのは、「浅」を渡って「竜」に入いる意味であったといわれる。城を「竜」というのは城内へ「竜」が集るように城を築く時方向や竜脈「竜の道」を測定して開城したといわれる。「通津」のことを「聚竜通津」といった。入口は「竜氣」が出入する道ともいう。竜津路を出ると九龍湾があつて船舶が出入した。そこまで桟橋（石橋）があつて「竜津石橋」と称していた。城内には「竜氣聚会」の地があつて、老人院の場所で「竜津義學」などの建物があつた。ここはかつて九竜司衛が置かれ大砲のあつたところである。地球の磁場と人間の関係を「風水」と称している。古く戦国時代に起つたと伝えられているが、地形の人間の魂の関係ともいふ家を建てる方向、水の流れ方、山と川の交りこうした風水が竜脈であるといわれている。住民の住居は勿論であるが、城塞の建築の場合は、この「風水」がきびしく問われたといふ。
- ⑪ 竜津一巷と二巷は早くから開けていた。三巷と尾巷、横巷は後に出来たものである。竜津路から命名されている。なお竜津後街にも住居を移転させてから一巷と二巷ができる。
- ⑫ 光明街 (Kwong ming st) 1960年代両側に石造りのアパートが並び、日が射さぬ路地で「追竜」と呼ばれた鴉片中毒者がろうそくを灯して暮していたので呼称されるようになった70年代は高層も撤去されて光が見える。現在は食品製造、機械、魚屋などが入っている。他地区へ販売する商売（卸売）などが集中している。
- ⑬ 九竜城が造られるのは清の道光27年（1847）である。当時「竜津義學」は華麗であったといわれる。一般的には「貢院」と同じで、石門や石柱があり、門柱には当時の新安県知事の王銘鼎の「竜津義學」の額がかかげられていた。その後光緒23年（1897）にも増築がなされている。単なる学校ではなくて、九竜郷の事務会議なども行われていたといわれる。創立の経緯については王銘鼎の敍文が残っている。魯金：「九竜城塞史話」前掲書
- ⑭ 社公街 (sgkung st) 狹いが長い小路で大井街と横に跨いでいる。大井街と十字

香港の街巷名について（藤島）

路になっている。屈折して竜津道へ出ている。もと大井街の一巷と二巷は社公街と接続していた。そこへ社公街が入って来て一巷と二巷が埋没して了ったのである。三巷のみが残っている。社公とは俗称である普通は石でできた男性の象徴を祀る。土地を守る神とされている。郷村では新しい土地を拓き住居をたてる時、この石頭を祀る。ここでは小廟をつくって神壇を置いたと思われる。このことは大井街には井神を置いたのと同じで郷村の生活習慣であったものと思われる。

- ⑯ 香港に於ける「水」は貴重であったから井神を置いて大切にしている。城塞を築く最も大切な条件の1つに「水源」がある。大井街の大井があったので九竜城が造られたともいわれる。この水は城塞を造る時に特に用いられたふしがある。命名されてから30~40年間九竜城居民の生命を保ってきたといわれる。大井街へ入いるためには東頭村道側からである。今でも香をあげて祀っている。
- ⑰ 海の女神である。福建省の沿海にある媚州島で、北宋の建隆元年に生れた女性林默という実在の女性に神位が与えられた。彼女は雍熙4年27才で死んでいる。元王朝は内陸出身の王朝であったため、海軍政策が十分でないことを自覚し、海域の平定と信仰によって海上域の掌握が重視した。俗名を娘娘といった林默を海の神として「天妃」の位を与え、その後康熙22年には澎湖島の海難事件に功績があったとして「天后」の位が与えられた。この信仰は福建人のものであったがやがて華南の各地に拡まる。各地に「天妃」の廟、あるいは「天后」廟が建立される。観音信仰と交差して天后的像が建てられたりしている。福建人の象徴であり、華南の海神として東南アジア各地へも拡ろまっている。海の女神であるが、華南人の信仰の対象とまでなっている。このことから、九竜城内には福建人が多くいたものとも推定できる。

香港の街巷名について（藤島）

